福井の旅プラン 学生目線で提案

大阪 仁愛大など旅行社に

JR西日本と北陸3県で構成する北陸三県誘客促進連携協議会は4日、福井県の観光地を訪れた大学生が県内の旅行プランを旅行会社に逆提案するイベントを大阪市で開いた。学生の「若者目線」を旅行商品に取り入れ、来年に延伸開業する北陸新幹線の利用促進や地域の活性化につなげる。福井県の福井大、仁愛大に加え、東洋大や立命館大など計9大学の学生がモデルコースを作成し、JTB関西や日本旅行の幹部らに発表した。

大学生が旅行プランを旅行会社に逆提案したイベント＝4日、大阪市

福井大は若い男女グループをターゲットに、景勝地「気比の松原」（敦賀市）での地引き網体験とバーベキューのプランを提案。神戸松蔭女子学院大は県立恐竜博物館（勝山市）を組み込んだ恐竜ツアーを、広島経済大は名水百選の「鵜の瀬」（小浜市）を看板に据えた行程を示した。立命館大は歴史をテーマに大正時代の建築物が残る坂井市三国町周辺を、フェリス女学院大は「恋人の聖地」として知られる若狭町の公園をそれぞれ紹介した。

昨年は石川県をテーマに同様の企画を行い今回で2回目。来年は富山県を取り上げる予定。